

Young Investigator Committee 主催
第7回オンライン抄読会のご案内

第7回抄読会は、HR-pQCT（High Resolution peripheral Quantitative CT：高解像度末梢骨用定量的CT）という「ヒト生体に使用できる micro CT」をコンセプトに開発された臨床用画像装置を解析に加えて、テリパラチド毎日製剤、テリパラチド週1製剤、ビスフォスフォネート週1経口製剤の薬剤における違いについての臨床研究成果をご発表されました長崎大学千葉恒先生に演者をお願い致しました。

“テリパラチドの毎日製剤と週1製剤はどう違うの？” “どうして橈骨の DXA の値は減ってしまうの？” など、日常の疑問が目で見えてわかる、というのが HR-pQCT の魅力だと思います。

その装置が本邦で初めて導入された長崎大学の、骨構造研究の第一人者のお話を直接聞ける、貴重な機会です。論文作成の御苦労話やこだわりのお話などを交えながら、論文の内容をご紹介します。

千葉先生は、今年から骨粗鬆症学会若手研究者育成委員会委員長に就任されました。ご自身の日々の生活と研究の両立、留学経験にまつわるお話など、臨床研究だけでなく基礎研究に携わっていかうと考えている若手に向けたメッセージを込めて、熱いお話が聞けると思います。是非、ご参加ください！

第7回担当：坂本優子（順天堂大学）、蛭名耕介（大阪大学）

【日時】2023年5月8日（月）18時30分～19時30分

【演者】千葉 恒先生（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科整形外科・講師）

【論文】Randomized controlled trial of daily teriparatide, weekly high-dose teriparatide, or bisphosphonate in patients with postmenopausal osteoporosis:
The TERABIT study Bone 160 (2022) 116416
Bone. 2022 Jul;160:116416.

【参加登録方法】

5月7日（日）までに専用のフォームからお申し込みください。フォーム URL は日本骨代謝学会メールニュースでお知らせいたします。非会員で参加を希望される方は学会事務局（jsbmr@ac-square.co.jp）までご連絡ください。

また、シニアの研究者の参加も歓迎いたしますが、質疑応答は若手研究者を優先いたしますことを、御了承ください。